



HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL 地域医療連携福祉センター NEWS LETTER

No. 1 0

北海道大学病院緩和ケア研修会開催



●福田病院長より開催の辞

北海道大学病院では、7月10日(土)、11日(日)の2日間にわたり、学术交流会館において、平成22年度北海道大学病院緩和ケア研修会を実施しました。この研修会は、本院ががん診療連携拠点病院の指定を受けていることに伴い、厚生労働省が定める指針に拠り、がん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修会を毎年実施すること

となっているもので、昨年に続き2回目の開催となります。募集定員を大幅に超える参加申込があり、医師・歯科医師28名、看護師・薬剤師等のコメディカルスタッフ14名の受講となりました。

研修会は各セッションでディスカッション、小グループに分かれて行うロールプレイ、グループ演習など非常に能動的な内容で、中でもこの研修をもっとも特徴付けるコミュニケーションロールプレイでは、医師・歯科医師・コメディカルスタッフを組み合わせたグループごとに、医師役・患者役・患者家族役などの役割分担をしてそれぞれの役を日常の職業とは違う立場からも演じることで、コミュニケーションの方法や難しさだけでなく、医師のプレッシャーや患者のショック・つらさなども理解することができ、それぞれの立場に対する相互理解も深まります。

すべてのセッション終了後、腫瘍センター長から修了者へ修了証書が手交され、その後のふりかえりでは、多くの参加者から、この研修会で習得した知見を診療に活かしたい旨の発言が多く聞かれました。また、修了者へのアンケートでは、改善した方が良いと思われる点や、研修の難易度、理解度、「緩和ケア」という分野に対する意識などさまざまな意見とともに、「多職種が関わることで得る内容が多

かった。」「周囲のスタッフにも勧めたい。」など好評な意見が多く寄せられました。

緩和ケア研修については、北海道の21の二次医療圏においてがん診療拠点病院が整備されていない区域が南檜山、日高、根室など12あり、研修参加が難しいなどの問題点が挙げられています。11月17日(水)に開催された北海道がん診療連携協議会専門部会研修部会では、今後各がん診療拠点病院が、地方出張開催、日(2週連続日曜日)開催、開催日程が決まった段階で北海道のホームページ(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kak/gan_kenshu.htm)へ掲載など、がん診療拠点病院空白地域の医療機関が研修に参加しやすい環境整備をすすめるとの申し合わせがありました。2010年4月診療報酬改定により、この研修を修了した医師が、定められた施設基準を満たした医療機関において緩和ケアを要する患者に対して必要な診療を行った場合に、1日につき400点を算定できるようになりましたので、ぜひ積極的にご参加いただければ幸いです。本院の緩和ケア研修会に関するお問い合わせは、医事課医療支援室地域医療連携係(☎011-706-5629)または腫瘍センター緩和ケアチーム(☎011-716-1161・内線5659)までお尋ねください。

(医事課医療支援室地域医療連携係 鍵谷・山内)



●事例検討の様子



●講義での応答の様子



●コミュニケーションロールプレイでそれぞれの役を演じる参加者

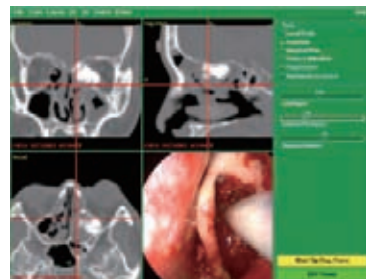


●修了証書授与

耳鼻咽喉科外来のご紹介

耳鼻咽喉科 助教 高木 大

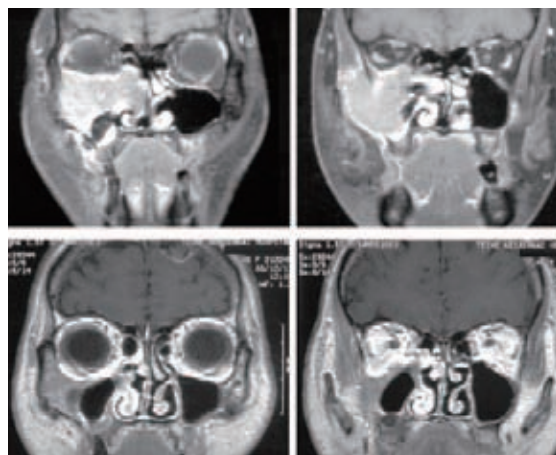
耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、新生児から高齢者まですべての年齢層を対象に、聴く・嗅ぐ・味わうといった感覚器を始め、話す・食べるなどの生活を営むために必要な器官を扱います。そのため、腫瘍、炎症性疾患、アレルギー・自己免疫疾患を始め、聴覚・平衡・嗅覚・味覚・音声・嚥下・顔面神経の機能障害などの多種多様な疾患を診断し、治療を行っております。



頭頸部腫瘍外来

頭頸部腫瘍外来は、毎週火曜日の午前中に行われ、午後には放射線科との合同カンファレンスを行っております。治療に関しましては、手術、超選択的動注化学療法、放射線化学療法を行っております。

また再建手術など手術までに時間を要する場合や、超進行癌に対する放射線治療前の導入化学療法も行っております。最近では当院の腫瘍内科のご協力で、より厳密な管理での全身化学療法を施行している症例もあります。超選択的動注化学療法は1999年から施行しており、多くの経験から適応症例の選択も適切になってきています。以前の治療法では救済できなかった進行症例も完治することがあり、頭頸部腫瘍領域での大きな進歩と思われます。特に上顎洞の腫瘍は治療成績がよく、良い適応と思われます。



■超選択的動注化学療法を施行した上顎洞癌
治療前(上)治療後(下)のMRI

聴覚・中耳手術外来

新患者の内容は急性感音難聴を含む難聴の精査・加療、乳幼児の聴力評価および方針決定、中耳疾患の手術適応決定など幅広く含まれております。特に、他院で治療を受けられた後の難治例の紹介患者数が増加しております。突発性難聴に対してはステロイド、循環改善剤等に合わせて高圧酸素治療、星状神経節ブロックを麻酔科へ依頼の上で施行しております。また、突発性難聴や低音障害型感音難聴症例の難治例やステロイド全身投与困難例において適応と考えられた例に対しては鼓室内ステロイド注入療法を施行しています。



■当科外来の頼れる
看護師さんたち

免疫・アレルギー外来

免疫・アレルギー外来は毎週水曜の午前午後で行っています。午前外来は新患のアレルギー、副鼻腔疾患の患者さんとウェゲナー肉芽腫症、反復性多発性軟骨炎、シェーグレン症候群といった自己免疫疾患を中心に、午後外来はアレルギー性鼻炎を中心に診療しております。アレルギー性鼻炎の治療は薬物療法の他に減感作療法、CO2レーザーを中心に行っています。また、喘息を合併する好酸球性副鼻腔炎の患者さんが近年増加傾向にあり、手術を含めた治療を積極的に行っています。また、鼻副鼻腔の腫瘍に対する内視鏡を用いた低浸襲の手術にも取り組んでおります。



■外来でできるCO2レーザー

胆膵疾患外来診療のご紹介

光学医療診療部 助教 桑谷 将城

数ある疾患の中でも当科で扱っている消化器疾患は最も患者数も多く、ゆえに細分化も進んでいる領域であります。特に胆膵疾患は、より専門性の高い知識、内視鏡技術を必要とされるため、地域医療に携わる方々との連携が欠かせない分野と考えられます。

外来診療

日常診療の中で最も多い上下部消化管領域疾患とは異なり、胆膵疾患には、良悪性いずれにおいても外来診療のみで完結することが難しいという特性があります。それは、対象とする臓器が胆管・胆嚢や膵臓といった、直接内視鏡観察することが困難な部位であるということに加えて、検査・診断や処置に、より熟練を要すること、危険な合併症と隣合わせでもあることも大きく関わっています。良性疾患の代表格は胆嚢結石ですが、その診断には、まず腹部超音波検査が中心となります。しかし、それが単純な結石だけであるのか、癌を伴ったものであるのか、という鑑別となると一筋縄で行かないことも多く、入院の上での内視鏡検査を必要とします。胆膵領域の悪性疾患(胆道癌、膵癌)は難治性癌の代表とも言える疾患であり、特に大学病院の特性として、これらの患者さんのご紹介を多くいただき、診療の中心となっています。その治療の第一選択は外科的切除です

が、私どもが正確な診断、手術適応および進展度診断を行うことにより、根治的切除を可能とし、過大な手術を回避して適切な治療(抗癌剤化学療法)を行うことを診療の理念としています。

化学療法に関しては、全国多施設共同試験に参加の上、新規 regimen による臨床研究や新規抗癌剤を用いた治療も化学療法グループとも協力しながら積極的に施行しております。



内視鏡を用いた診療

主に超音波内視鏡検査(年間約200例、外来で施行可能)や入院の上で施行する内視鏡的逆行性胆管膵管造影(年間約270-280例)を中心とした術前診断、特に他施設では殆ど施行されることのない経口胆道鏡検査に力をいれています。最近では膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)を積極的に取り入れて、画像のみでは困難な診断を行い、遺伝子からのアプローチにも領域を広げつつあります。EUS-FNAを用いた診断や治療は世界的に隆盛を極めつつあり、最近ではその先端的治療として癌性疼痛に対する神経ブ

ロックや術後膵液瘻に対するドレナージ術も施行しています。また、胆道癌の術前には欠かすことのできない内視鏡的胆道ドレナージ(年間約200例)も多数行い、適切な管理のもと、外科に万全な状態で送りだすことを心がけています。

(基本検査手技・処置)

- 超音波内視鏡検査(EUS)
- 内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)
- 内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD, EBD)
- 内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)
- 内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD)

(応用検査手技・処置)

- 経口胆道鏡検査(POCS)
- 内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術(ENGBD)
- 内視鏡的膵管ドレナージ術(ENPD, EPS)
- EUS下穿刺吸引細胞診・生検(EUS-FNAB)



■EBD(金属ステント留置)



■ENBD



■EUS-FNA



放射線治療科外来紹介

放射線治療科 外来医長 鬼丸 力也

放射線治療科で扱う対象疾患は、脳腫瘍(良性腫瘍含む)、頭頸部癌、乳癌、食道癌、肺癌、前立腺・泌尿器系癌、婦人科癌、骨転移や脳転移、その他と多岐にわたっております。幅広い分野を対象としておりそれぞれの専門性が高いため、月曜日は乳癌・婦人科癌・前立腺・泌尿器系癌、火曜日は頭頸部癌、木曜日は肺癌・食道癌・脳腫瘍の専門外来が開かれています。新患の患者さんは月・火・木と受け付けておりますが、疾患によっては曜日の制限がありますので、地域医療連携部を通して予約を頂けると幸いです。

初 診

初診時に問診・診察を行います。同時に治療している、あるいは今まで罹患した疾患によっては放射線治療を行うことができないこともありますので、問診の際にお伺いすることになります。また、放射線治療との併用が要注意とされる薬剤がありますので、病院から薬を処方されている患者さんはお薬手帳を持参ください。

疾患によっては院内複数科で行われるカンファレンスで治療方針を決定します。その際に患者さんには複数医師からの診察を受けて頂くことがありますので、ご協力ください。

外来通院治療

放射線治療に必要な時間は、特殊な治療を除き10～20分程度です。放射線治療だけの治療している場合は、放射線治療による反応が強くないことも多くあります。そのため入院の必要のない患者さんも多く、その場合は外来通院で放射線治療を受けることができます。治療に必要な日数は1週間から2ヶ月と幅がありますが、元気に通院される方が多くいらっしゃいます。

経過観察

放射線治療後の経過観察を専門外来で行うことがあります。放射線治療による反応が続いている間は2週から1ヶ月に1度程度の頻度ですが、反応が落ち着けば経過観察の期間は延びるのが一般的です。放射線治療終了後も病変の縮小が続くため、治療効果の判定は放射線治療終了後1ヶ月～半年くらいで行うことが一般的です。

特殊治療の紹介

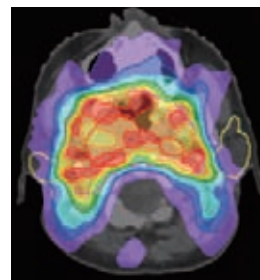
■動体追跡照射

当施設では、世界で初めて患者さんの体内に埋め込んだ金マーカーを放射線治療中に追跡して、狙った範囲にきたときのみ放射線を照射する動体追跡照射装置を開発しました。それを用いた放射線治療を行い、低侵襲で高い効果を出す治療を行っています。金マーカーを体内に埋め込むための入院が必要です。入院での治療が一般的ですが、状態が許せば通院での治療を行うこともあります。



■強度変調放射線治療 (IMRT)

疾患によっては病変の形に合わせて放射線を強くかける強度変調放射線治療を行っています。ただし、普通の放射線治療よりも治療準備に時間がかかるため、普通の放射線治療でも同等の効果・副作用が予想される場合は普通の治療をお勧めしております。



歯内療法・歯周病専門外来のご紹介

助教 外来医長 小田島 朝臣

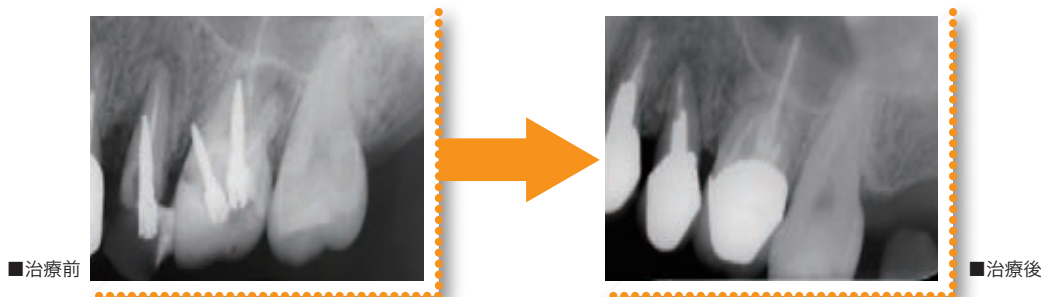
当外来では、歯内病変といわれる「歯の根の病気」と歯周病いわゆる「歯槽膿漏」の2大歯科疾患を主な治療対象としております。また、これらの疾患に関連した医原性疾患の対応を行う頻度も低くありません。

歯内療法＝歯内病変「歯の根の病気」の治療

虫歯の進行などにより歯の神経と呼ばれている部分に細菌が侵入することで病変が起きたり、歯の根の先から周囲の組織に病変が広がったりした場合に行われる治療です。

的確なレントゲン画像診断と熟練した手技、さらにマイクロスコープやCT画像を併用してこの治療を行うことで、精度が

向上し再発の可能性の低い治療を行うことができるようになってきています。したがって、かなり重症な罹患歯（医原性疾患を含む）でも抜歯せずに保存・機能回復することは稀ではなくなっています。



歯周治療＝歯周病「歯槽膿漏」の治療

歯周病は、プラーク・歯垢（細菌の塊り）が原因となって歯肉出血・腫れが起こり、歯を支えている歯槽骨などの歯周組織が侵入した細菌の出す毒素によって破壊される口腔内感染性疾患です。現在でも、歯の喪失原因として大きな部分を占めています。

歯周治療は、現在でも多くの場合、歯周病の進行抑制を第一目標としてすすめられています。しかし、治療器具の進歩や歯

周組織再生療法の臨床導入および歯周組織への適正負担を考慮した咬み合わせの機能回復の治療も併せて行うことによって、以前であれば抜歯しなければならなかった重度の歯周病罹患歯でも、これまで以上に、抜歯せずに治療することができるようになってきています。また、医原性疾患の側面を有する人工歯根（＝インプラント）周囲の炎症の治療などにも取り組んでいます。



HPVワクチン外来開設のお知らせ

婦人科外来医長 武田 真人

北大病院婦人科では今年7月よりHPVワクチン外来を始めました。HPVとは、性交渉で感染し、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウィルスのことで、このHPVに対するワクチンが近年開発され、日本では昨年末に認可されました。このワクチンは約100種類あるHPVのうち、もっとも子宮頸癌を発生しやすい16-18型に対するもので、初回、一ヶ月後、半年後と計3回の接種で、免疫効果は18年間維持されます。ワクチン接種の普及により子宮頸がんの患者

は将来的に80%以上減少すると予想されています。ワクチン接種は特に10歳以上でセクシャルデビュー以前のHPVに感染していない女性に効果的ですが、基本的に子宮頸がんや前癌病変で治療を受けたことのある方の一部も対象になります。外来は完全予約制ですが、婦人科の受診歴のない方でも電話で予約可能です。また、HPVの検査も行っていますので、気軽に御相談戴ければ幸いです。

連絡先 北海道大学病院婦人科外来 ☎011-706-5762、5763
診療日 月・火・木 ▶ 14:00-15:00 水 ▶ 9:30-11:00
 これ以外で診療可能な時間帯もございますので気軽にご相談下さい
診療費 ワクチン接種（診察料込み）：初回 ▶ 18,616円 2回・3回目 ▶ 各15,361円
 HPV検査 ▶ 6,405円

血液疾患患者さんの治癒を目指した 化学療法・造血幹細胞移植のための無菌病棟

血液内科診療教授 田中 淳司

北大病院では浅香前病院長、福田現病院長のご英断により12-2病棟の北側を全面改修して病棟全体を無菌管理の出来る無菌病棟といたしました。この結果いままで稼働していたHEPAフィルターを装備した完全無菌室4床（NASA 規格Class 100）にくわえて、Class 10,000の無菌個室7床、4人部屋無菌室4部屋（16床）の合計27床が無菌室として9月より稼働開始致しました。これらの無菌室を使用して、強力な化学療法や移植前処置等によって顆粒球が減少する患者さんの感染症のリスクを可能な限り軽減し、従来は不治の病と言われていた白血病や悪性リンパ腫などの重篤な血液疾患患者さんの治癒を目的とした化学療法や造血幹細胞移植を積極的に行って参りたいと思います。このように北大病院においては、一人でも多くの難治性血液疾患患者さんの治癒をめざして、血液診療を行う

医師・看護師・関係する医療スタッフみんなが結集した造血細胞治療センターとして血液疾患の治療と移植療法の発展に一層の努力を行っていきたいと思いますので、地域の関連する病院の先生方におかれましては、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



肝疾患相談センターを開設しました

北海道大学病院は、平成21年8月24日に北海道における「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受けました。本院においては、平成22年度から肝疾患に関する専用相談窓口として「肝疾患相談センター」を開設し、B型あるいはC型などのウイルス性肝疾患（肝炎、肝硬変、肝がん）を主な対象として、患者さんやご家族の疑問や不安の相談に応じています。

相談受付時間：月曜日～金曜日

9時から17時まで（休日をのぞく）

専用電話：011-706-7788

ご相談に関する詳細は、北海道大学病院肝疾患相談センターのウェブサイト（http://www.huhp.hokudai.ac.jp/liver_center/）をご覧ください。



化学療法部が移転しました

化学療法部（外来治療センター）は本年6月7日（月）に本院3階中央診療棟に移転しました。13床から20床に増床し、快適でより安全に高度な化学療法を提供できるようになりました。

化学療法部（外来治療センター）における2010年上半期の利用実績をご紹介します。月別（グラフ1）ではそれほど大きな差は見られません。曜日別（グラフ2）にみると、水曜日、金曜日の利用が比較的多い傾向が見られます。

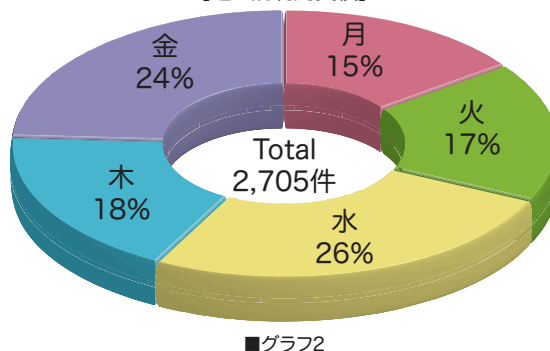
増床移転により、患者さんの治療日程調整はしやすくなっており、まだまだ沢山の化学療法患者さんの受け入れが可能となっています。



【月別利用実績】



【曜日別利用実績】



医療機能連携についてのご意見・ご要望について

平成22年6月にお答えいただいた医療機能連携アンケートの当院へのご意見・ご要望について一部をご紹介します。

1. 紹介予約患者手続について（予約～返書まで）

- ・ 外来予約可否の返事はもう少し早くいただきたい。（できれば30分以内）
- ・ 通常の紹介状持参し初診する場合と地域医療連携福祉センターを通し予約の初診の違いがあまり明確ではない。

2. 転院調整について

- ・ 療養型病院では治療内容に限界があることを紹介に際して十分に患者・ご家族様に説明して納得をいただきたいと思います。

3. 医療機能連携の充実への期待について

- ・ セキュリティーの問題は多いと思いますが、ゆっくりで良いので患者情報などをPC間でやり取りできる様なシステムの構築をしていただければと思います。

その他入院受け入れ対応について、受診の問い合わせの1本化などご要望をいただきました。内容から、すぐに改善できることと院内で検討すべきことが明らかになりました。ありがとうございました。

今後、更に医療連携の機能充実に向け、ネットワークの強化と患者サービス向上を目指していきます。

電話回線変更のお知らせ

地域医療連携福祉センターは平成22年12月より以下に回線が変更になりましたのでご連絡いたします。

- 紹介予約患者受付……………011-706-6037、011-706-7018
 - セカンドオピニオン・がん相談 ……011-706-7040
 - 退院調整……………011-706-7943、011-706-7039
- ※いずれも直通電話になります。



紹介患者予約・医療機関別ランキング(平成22年4～10月)

【札幌市内】

- ① 東 区 天使病院
- ② 厚別区 札幌社会保険総合病院
- ③ 北 区 札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル
- ④ 東 区 勤医協中央病院
- ⑤ 中央区 NTT東日本札幌病院

【札幌市外】

- ①千 歳 市 市立千歳市民病院
- ②砂 川 市 砂川市立病院
- ③苫小牧市 苫小牧市立病院
- ④苫小牧市 喜早眼科
- ⑤北 見 市 北見赤十字病院

・ 編 ・ 集 ・ 後 ・ 記 ・

4月から地域医療連携福祉センターに配属になりました看護師の石岡明子です。主にがん患者さんの退院調整・在宅療養支援を行っています。患者さん・ご家族が安心して療養に望めるように、医療機関の皆様と丁寧な連携をしていきたいと思ひます。また、がん相談支援室の充実を図るようスタッフ皆で準備を進めていますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

発行 平成22年12月

北海道大学病院

地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-6037・7040(直通)

FAX : 011-706-7963(直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>

医療機能連携協定について、当センターホームページにアップしました(<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/community/hospital/index.html>)。